

650.23-N487



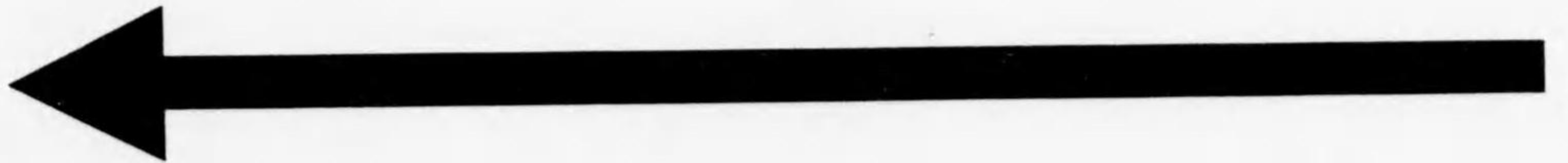
1200500749799



南方園研究会 研  
究資料 第十四輯 比律賓森林樹木の研究 同會編  
(二)



始



9.33

(F)

420

昭和十八年三月三十一日

研究資料第十四輯

【非賣品】

比律賓森林樹木の研究 (二)

發行所 南方圈研究會

650.23  
N48

はしがき

比律賓群島には無慮數萬種の樹木があるが、その内の主要樹木について、一般的の知識を得ようとするのがこの研究である。研究の内寄は、例へば『カカオ』は何科に屬する植物で、フリツピンでは『ツゴン』といひ、その木の高さ、直徑、外皮及び軟皮の色、華の形狀とその大小、或は外皮の脱落状態とか、落葉の有様、生育せる土壤、乾季と雨季に於ける状態、邊材及び心材の色調、硬軟強弱、用途、分布地方、學名、地方名又は商業上に於ける地位等を、各種について、能ふだけ詳細に説明してあるのが、この研究資料である。

『研究資料』第十三輯から（但し第十五及び第十六輯は別）第十八輯までは一般主要樹木に就ての研究を發表し、その後は更に各種屬の箇々についての詳細な研究を發表する豫定である。

卷末に主要樹木の科、種類、公稱名及び一般商業用名稱、並に各群島名及び地方名の原語表が添付してある。

昭和十八年三月

南方圈研究會

E 933  
420

目 次

は し が き

Nutmeg 又は Duguan 種屬 .....	(1)
Duguan .....	(1)
Cinnamon 又は Baticulin 種屬 .....	(3)
Mamalis 種屬 .....	(7)
Rose 又は Liusin 種屬 .....	(7)
Liusin .....	(7)
Locust 又は Narra 種屬 .....	(9)
Narra .....	(10)
Batete .....	(13)
Supa .....	(14)
Ipil .....	(15)
Tindalo .....	(17)
Cupang .....	(18)
Acleng-parang .....	(20)
Salinkugi .....	(21)
Banuyo .....	(22)
Acle .....	(23)
Lemon 又は Camuning 種屬 .....	(28)
Canary 又は Pili 種屬 .....	(29)
Mahogany 又は Calantas 種屬 .....	(30)

Calantas .....	(30)
Santol .....	(32)
Malasantol .....	(33)
Tucang-calao .....	(34)
Tabigi .....	(35)
Plagao .....	(36)
Rubber 又は Binunga 種屬.....	(38)
Sumac 又は Mango 種屬.....	(42)
Amugis.....	(42)
Dao .....	(44)
Balinhasay .....	(45)

此の比律賓の森林樹木の研究は、四輯で完結するはずであるが、第十五及び第十六輯は、編輯の都合上他の資料を刊行しますから、續輯は第十七及び第十八の二輯で出すことに致します。

## 比律賓森林樹木の研究 (二)

### 肉豆科ナツトメツク又はツグアン科植物 (Nutmeg, Duguan) (Myristicaceae) ニくづく科

樹皮を傷つければ稀薄で赤色の樹液が夥しく流出するから容易に識別することが出来る。葉は互生の單葉である。

少量乍ら用材として市場に出るものが二種あり、用途は地方的である。同科の數樹種は總括して一様にツグアンと稱せらる。併しこの名稱は後述するミリスチカ・フィリペンシス (*Myristica philippensis*) に適用すべきものである。

### ツグアン

樹高十五米乃至二十五米、直徑六十糎乃至六十糎以上に達す。樹幹はやゝ不整形、軽い板根があつて十二米に及ぶ。樹冠は不整形、繁茂やゝ密で樹高の約三分の一を占む。二羽柿科林に點在し、肥沃



(挿圖六) Duguan (*Myristica philippensis*)

中央は花、右下は果實

な土壤を好む。半蔭地植物である。

樹皮は厚さ四粒乃至六粒、類黒色で、剝離後の露出部は淡褐色である。韌皮は褐色乃至赤褐色、傷つけば稀薄な赤色樹液を分泌する。

葉は互生の單葉、裏面に銹色の小毛があり、長さ十三粒乃至三十六粒、幅六粒乃至十三粒。

邊材は極く淡いクリーム・ピンク色、心材に到れば幾分暗色を増す。材質は軟柔で重さは中庸。耐久力弱く、幾分海綿状をなして居る。

用途は地方的で、一時的及び輕建築物、箱、柵に用ふ。

分布、ルソン島(カガヤン、イロコス・ノルテ、イロコス・スル、アブラ、ベングエツト、パンガシナン、バレル、リサル、バタアン、ラグナ、バタンガス、タヤバス、カマリネス)、カミグイン島、ミンドロ島、レイテ島、バラワン島、クリオン島、ミンダナオ島(サンボアング、ラナオ)、バシラ

ン島。

學名、ミリスチカ・フィリペンシス (*Myristica philippensis*)。タンバラオ (Tambalao) (*Kuena heterophylla*) もツグアンと稱する木材を提供する。但しタンバラオはミリスチカ・フィリペンシス (*Myristica philippensis*) より稍小で葉も小型(長さ十四粒乃至二十四粒、幅五粒乃至八粒)、裏面は白色を呈して居る。



(挿圖七) Tambalao (*Knema heterophylla*)

地方名、ツグアン(タガログ語)、タンバラオ(サンバレス州、バタアン州)、の名稱以外に、同科の數種には左記の共通名がある。

アナピラス(anapias)(バンガシナン州)、アニス・カホイ(anis-kahoi)(タガログ語)、アニス・モスカダ(anis-moscada)(タガログ語)、バリントア(balintua)(サンバレス州)、ツマダラ(dumadara)(カガヤン州)、ヅルゴ(durugo)(ラグナ州)、ヒンダン・アチアン(hindang-atian)(レイテ島)、ラノット(lanot)(カガヤン州)、マラマボロ(malamabolo)(バンガシナン州)、パロン(palong)(イロカノ語)、サギン・カホイ(saging-kahoi)(タガログ語)、タラン・タラン(talang-talang)(タガログ語)、タリハガン(talihagan)(カガヤン州)。

**肉桂科シナモン又はバチキユリン科植物 (Cinnamon, Batulin)**  
**(Lauraceae) くすのき科**

外面的相違による種類は多様にあるが、樹種の數少なく、更に著しく疎生するから一ヶ所の産出量は寡少である。そのため商業的價値を有する樹種は少ない。各樹種(形態的種類でなく種屬)は互生の單葉を有する。

主要樹木はバチキユリン及びマラカチオスの名稱で知れて居る。我々の現在の知識では類似せるこ



これらの樹木を明確に識別することは不可能である。併し大別すれば三等級に分れ、その中間には更に段階的等級がある。

### マラン (Marang) 又はホワイト・バチキュリン

樹高中庸で、通直、圓筒状の樹幹がある。疎生するも分布は廣汎である。材色は極く淡い黄色、中心部へ近づくにつれ濁つた白色となる。輕軟で木理は粗糙、イエロー・バチキュリン (Yellow baticulin) に比すれば昆蟲の侵害に弱い。この木の樹種はリッセア・ペロテチイ (*Litsea perrottetii*) と稱するものである。建築用材バチキュリンと云はれた材は、この樹種であらうと思はれてゐたが、本材は彫刻用で建築材ではない。

### イエロー・バチキュリン (Yellow baticulin)

『イエロー・バチキュリン』と稱する樹種はリッセア属 (*Litsea*)、ホエニ属 (*Phoebe*)、デハンシア属 (*Delasinia*)、ネオリッセア属 (*Neolitsa*) 等である。

指物師、彫刻師が『バチキュリン』と稱する材は、輕軟乃至堅重中庸で、淡い麥藁色或は濃赤黄色、濃緑黄色を呈し樟腦臭があり、昆蟲の侵害を受くることは稀である。



(挿圖八) Marang (*Litsea perrottetii*)  
中央は花集と若い果實、右下は成熟した果實

・ **バスマラン** (*Bashayan*) (*Dalasia triandra*) は樹高中庸で材色は濃黄色。輕軟乃至稍重く、彫工はバチキユリンと云つて居る。

**マラヤ** (*Malaya*) (*Phoebe sterculioides*) は普通のバチキユリンより材がやゝ重く、濃色である。

**プソプソ** (*pusopso*) (*Neolitsea vidalii*) は材色緑黄色で褐色の條又は斑點を有し堅重中庸である。恐らくバチキリンとして通用するであらう。

**リッセア** 屬の數種は以上述べたものに酷似せる材を産し、バチキユリンとして通用することは無論である。

**ツグカタン** (*Dugukatan*) (*Cryptocarya bicolor*) は心材暗褐色で鈍黄色の邊材と明瞭に境する。材質堅硬で稍重い。木理通直、稍美麗で耐久力があるから好評である。ミンダナオ島のみ産し、家屋の柱として用ふ。物理的特質と耐久力の點ではマラカチオスに匹敵する。

#### **マラカチオス** (*malakatos*) (*Beilschmiedia cairocan*)

樹高三十米、直径七十糎乃至それ以上、樹幹は十六米乃至二十米に達する。樹皮は厚さ一糎より二糎、灰色又は濁褐色で明瞭な隆起がある。木栓細胞の下は孔窩に富む薄い海綿狀層となり、邊材に近づくと褐色又は暗褐色となる。葉は單葉、互生で裏面が稍白い。長さ九糎乃至二十糎、幅三糎乃至

至八種に達する。材は黄色、堅重又は稍堅重、木理幾分美麗、新材は芳香性の臭氣があり燃焼し難い。  
用途、家屋建築（床、柱）、家具、造船。

分布、ルソン島（イロコス・ノルテ、イロコス・スル、タヤバス、カマリネス）、チカオ島、マスバ  
テ島、バナイ島、サンボアンガ地方。

『マラカデオス』は北部諸島に於ける名稱で、サンボアンガ地方では「キュービ」と稱する。

### タンブリアン (tambulian) (Eusideroxylon zwageri)

『タンブリアン』はアイアン・ウッド (iron wood) のこと、ボルネオのビリアン (bilian) と同じ  
種類に屬し、タウイ・タウイ (Tawi Tawi) 島では『タンブリアン』といつて居る。

材は黄色で、外氣に接すれば光澤ある褐色となる。著しく堅重で木理は通直である。挽き難いが仕上  
げは難くはない。打込丸太に適し、重建築物、橋梁、電信電話柱、枕木に用ふ。  
フィリッピンではタウイ・タウイ島のみ産する。

### カリングゲ (kalingge) (Cinnamomum mercadoi)

樹高中庸で通常タンギル・オーク (tangile oak) 林に生育する。



(挿圖九) Malacadios (Beilschmiedia cairocan)

左端は果實、右端の上は花集

材はにぶい赤褐色で暗色の條と斑點がある。材質は軟乃至堅重中庸であり、樹皮、材共にササfras (sassafras) の激しい味と臭氣がある。

樟腦樹 (Cinnamomum camphora) はフィリッピンの原産ではなく、最近移種されたものである。

肉桂 (Cinnamomum mindanense) はミンダナオ島に産し、用途は地方的である。

### ママリス科植物 (Mamalis) (Pittosporaceae) とべら科

ママリスは空地に生育する矮樹で、バスット (busait) (イロカノ語)、ダラヤオ (darayao) (パラフン島)、チリ (dii) (ヌエバ・ビスカヤ州)、ママリス (mamalis) (タガログ語) の名稱を以て知られる。

材色は淡く、堅重中庸、用途は地方的である。

### 薔薇科又はリウシン科植物 (Rose, Iusin) (Rosaceae) いばら科

商業上重要な用材樹種は一種のみである。

### リウシン

樹高二十五米乃至三十米、直徑七十糎乃至一米に達し、樹幹は概して通直、整形で軽い板根がある。

樹冠は不整形の圓錐形をなし、繁茂は密である。二羽柿科林に疎生し、乾濕何れの地にも適する陽樹である。

樹皮は厚さ五耗乃至八耗、淡褐色又は淡灰色で、平滑、剝離すれば帶綠淡灰色の肌を露出する。ミンダナオ島産の樹皮は外側にまくれ、下垂して細長く脱落する特徴がある。韌皮は焦赤色で甚だ脆く傷つけばやゝ甘味ある水狀の樹液を分泌する。

葉は單葉、互生、小毛なく葉柄の基底に二個の多少顯著なる堅果がある。やゝ革質で長さ九耗乃至十五耗、幅三耗乃至七耗である。

邊材はクリーム褐色、心材は淡い赤褐色、堅重で挽き難い。木理は美しく、通直である。海水に對して著しい抵抗力がある。打込丸太に適し、造船、家屋の柱に用ふ。

分布、ルソン島（カガヤン、イロコス・スル、アブラ、ヌエバ・エシハ、パンガシナン、リサル、サンパレス、バタアン、タヤバス、カマリネス）、ミンドロ島、サマル島、レイテ島、ギマラス島、ミンダナオ島（サンボアンガ、ラナオ、ダバオ）。

學名、バリナリウム・グリフチアナム (*Parinarium griffithianum*)

此の科の異種にリウシン (*Liusin*) と判別し難い材を提供するものがある。最近までは用途狭く、最初バタアン及びサンパレス産のリウシンと稱せられたるものである。



(挿圖十) *Liusin* (*Parinarium griffithianum*)

左は花集、右は果實

地方名、アニングガット (aningat) (カガヤン州)、バカヨ (bakayo) (バンガシナン州)、ビンガオ (bingao) (イロカノ語)、ビンガス (bingas) (バンガシナン州)、ツンロン・ツンロナン (dungon-dungonan) (タヤバス州)、カンカンガン (kankangan) (ダバオ地方)、カプガンガン (kayangan) (ミンドロ州)、クラチンガン (kulatingan) (タルラック州)、マラフガ (malafuga) (タヤバス州)、マルクック (maluktuk) (モロ語)、マンダリンガン (mandalingan) (サンボアング地方)、マタマタ (matamata) (レテ島)、オラヤン (olayan) (サマル島)、パスク (pasak) 及び サボンカアグ (saboukang) (イロカノ語)、サンピニット (sampilit) (ギマラス島)、サランガン (sarangan) (サマル島)、タブン・タブン (tabun-tabun) (アルバイ州)、タヂアン・マヌク (tadian-manuk) (リサール州及びアブラ州)、チガ (tiga) (サマル島)。

ピゲユム属 (Pygeum) のラゴ (lago) 又は リウシン・グバット (lusin-gubat) (Pygeum preslii) 及びその他の樹種は木材として用途がある。地方によつてはラゴ又は リウシン・グバットより織物の染料を抽出する。

・ **南蠻さいかち** 又は **ナラ科植物** (Locust, Narra)  
 (Leguminosae) **まめ科**



(挿圖十一) Narra

上は スビニイ・ナラ (Pterocarpus echinatus)  
 右下は ブランコ・ナラ (Pterocarpus blancoi) の果實  
 左下は ナラ (Pterocarpus indicus) の果實

ナ  
ラ

フィリッピンに於ける用材樹木としてナラ科は二羽柿科に次いで重要である。キュバン以外の樹種は耐久力強く美麗であるから家具材として優秀である。ナラ、チンダロ (tindalo)、バヌヨ (banuyo)、スバ (sapa)、アクレ (akle)、イビル (ibil) の六種は木理、材色共に美しく、家具、箆筒類製造用として世界市場の何れの材にもひけをとらない。

チンダロ、スバ、イビル、バヌヨは乾燥地或は砂地に、アクレ、イビル、ナラは濕潤な低地又は河邊に疎生する。キュバン、サリンクギ、アクレン・パランは再生林に生育し、何れも陽樹で、乾季の短い期間に落葉し、又何れも生長輪が著しい。

葉は單純又は二重複葉で、果實は何れも莢形をなし、種子一個を含むもの(ベティ)、羽を有するもの、刺のないもの(數種)と油性の刺を有するもの(スバ)がある。莢は通常長いものを以てナラ科植物の特徴とする。

樹高中庸で樹幹は太く短かく屢々大きな板根を有する(ナラ、キュバン)ものがある。開いた樹冠は横に擴がつて花瓶の形をして居る。乾季に於て落葉すれば、周囲の矮林と明瞭なる對照をなして居る。

樹高二十米乃至三十米、直徑七十糎乃至八十糎、稀に例外として一米五十糎乃至二米に達すること

がある。樹幹は十五米、不整形で角型である。横廣い板根よりは直径一米五十糎乃至一米のテーブルを製造し得る。樹冠は枝低く、廣く延びて瓶形をなして樹高の約半ばを占めて居る。

ナラは全島に分布し、主として乾季明白でない森林地帯に生育する。通常紅樹林マングローブの背後、即ち海岸沿ひの低地に最も多く、時には海に近い丘陵地の川に沿うて散在する。前者の場合は一ヘクタールに四五本の割合である。濕潤な低地を好むが、時としては乾燥せる傾斜地にも生育する。最も陽光を好み乾季の短かい期間に落葉する。

樹皮は厚さ三糎乃至五糎、觸感柔かく灰黄色又は黄褐色で、約一糎間隔に美しい縦線があり薄い小片となつて脱落する。靱皮は淡い赤色であるが、暗赤色の短管が統合して垂直線となり縞模様を描く。傷つければ深紅の樹液を分泌し、凝固すれば暗赤褐色の物質となる。この樹液は薬石、染料に用ひらる。

葉は單純複葉で互生、六枚乃至十一枚の平滑な葉片より成る。各葉片は長さ五糎乃至十三糎、幅二糎乃至八糎である。

邊材は稍クリーム白色を帯び、心材は黄色、赤色又は白色に近く、かすかな杉の芳香がある。水浸液は螢光現象が著しい。

材質は堅重中庸又は堅硬で、木理は粗糙、時には撚纏する。耐久性があつて心部は殆んど昆蟲の侵



害を受けぬ。板目には階段状の髓線(漣状の痕)を有すること著し。

用途、パンカス、橋梁建築、箆筒製造、水牛の軛、車輛、彫刻、扉、扉の羽目、家屋の仕上げ、床、家具、柱、鐵道枕木、店舗の正面、卓子の頭、塀、窓闕。

學名、ペテロカルプス・インヂクス (*Peterocarpus indicus*)。

類似せるものに刺ナラ (*Peterocarpus echinatus*) 及びブラシコス・ナラ (*Blanco's narra*) (*Peterocarpus blancoi*) がある。両者は細部にわたつてナラに酷似するが果實のみが異なる。

分布、ルソン島(カガヤン、イロコス・ノルテ、イロコス・スル、アブラ、ユニオン、ベンゲエツト、パンガシナン、ヌエバ・エシハ、タルラツク、サンバレス、ブラカン、バタアン、リサール、ラグナ、バレル、タヤバス、カマリネス、ソルソゴン、アルバイ)、バラニ島、マリニツク島、ミンドロ島、マスバテ島、サマル島、レイテ島、ネグロス・オキシデンタル島、バラワン島、バラバツク島、カミグイン島、ミンダナオ島(スリガオ、ミサミス、ラナオ、サンボアング、ダバオ)。

『ナラ』はフィリピンに於て最も廣く流布する用材の名稱である。一名フィリツピン・マホガニーとも稱せられ、又印度のバツク (*padouk*) 及びアンダマン・ローズウッド (*Andaman rosewood*) とは全々同一のものである。

地方名、アガナ (*agana*) (タガログ語)、アンタガン (*antagan*) (イバナグ語)、アパリット (*apalit*)

(タルラツク州)、アサナ (*asana*) (タガログ語、イロカノ語)、ダイタナグ (*daitanag*) (バンバンガ州)、ヅンゴン (*dungon*) (カリンガ・イゴロット語)、マガラヤオ (*magalaya*) (イロカノ語、イバナグ語)、ナガ (*naga*) (ピコル語、ビサヤ語)、ナラ (*nala*) (モロ語)、ナヤ (*naya*) (サンバレス州)、オチアノ (*odiano*) (バンバンガ州)、サガット (*sagut*) (カガヤン州)、サンキ (*sangki*) (イロカノ語、ビサヤ語)、タッグ (*tagga*) (イバナグ語)、ウリアン (*urian*) (バンバンガ州)。

#### バ テ テ (Batete)

樹高三十米乃至三十五米、直径八十糎乃至一米に達する。樹幹は整圓筒形をなし十八米乃至二十米で板根を有しない。球状の樹冠は繁茂密、全樹高の三分の一を占める。

乾季明白ならざる地方の乾燥地のみに生育し、石灰質の山背にモラベ或はスバと交つて存在するが、海邊の火山丘上でもヤカル (*Yacal*) と共に生育するを常とする。バテテはナラ科の他の品種に比すれば樹蔭地に抵抗力を有し、山背の頂上で根を淺く張る。

樹皮は厚さ七糎乃至一糎、黄色を帯びた灰色又は灰褐色で、渦形に脱落する。韌皮は赤色を呈し、葉は互生、單純複葉、通常三個乃至七個の互生小葉を有し、各小葉は平滑で長さ八糎乃至十九糎、幅四糎乃至九糎に及ぶ。

邊材は淡赤色、油脂性で暗緑色の汚い樹液を分泌する。心材は赤褐色なれども暗色の油脂があるから黒色の條がある。材は水に浸せば紫褐色となる。材質は堅重中庸、加工し易く、かなり耐久性がある。家具、床張り、内部仕上げ、側面に用ふ。

分布、ルソン島（カガヤノ、タヤバス、カマリネス、アルバイ）、チカオ島、マスバテ島、サマル島、レイテ島、ミンダナオ島（サンボアング、ダバオ）。

學名はキンギオデンドロン・アルテルニホリウム (*Kingiodendron alternifolium*) とす。

地名、ダンガイ (*danggai*) (ビコル語、ビサヤ語)、ツカ (*duka*) (レイテ島)、マグバラコ (*mag-balago*) (サマル島)、パロ・マリア (*paro maria*) (サンボアング地方)、パリーナ (*palina*) (ダバオ地方)、サラランギン (*salangin*) (アルバイ州)、タラバンゴン (*talabangon*) (ソルソンコン州)。

### スバ (Supa)

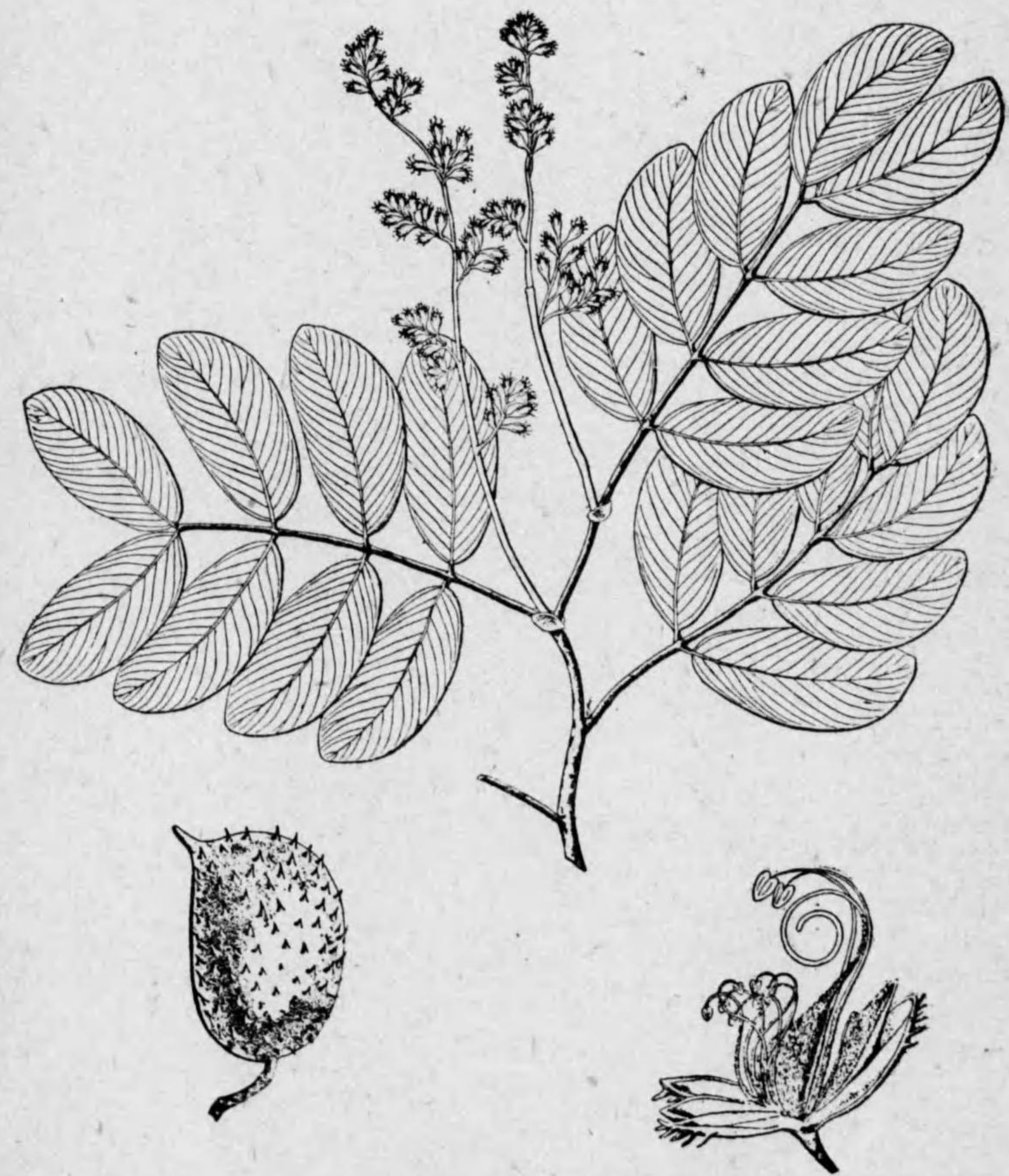
樹高二十米乃至三十米、例外として直径一米五十糎乃至一米八十糎に及ぶ。樹幹は整形、通直にして板根を有しない。直径二十五糎乃至四十糎の大枝を有する樹冠は、巨大で扁平な瓶型をなして開放する。乾季明白ならざる地方の一部に生育し、通常海邊の石灰質山頂に存在する陽樹である。

樹皮は厚さ七糎乃至一糎、褐色又は類黒色で、脱落片は大きい。樹皮剝離後の露出部は淡紅色を呈



(挿圖十二) Batete (*Kingiodendron alternifolium*)

左は花集、右下は果實



(挿圖十三) Supa (*Sindora supa*)

右下は花、左下は果實

する。葉は互生の単純複葉で、通常三對の革質、平滑な葉片があり、各葉片は長さ三糎五釐乃至九糎、幅二糎五釐乃至五糎に及ぶ。眞直で硬い刺に蔽はれた莢狀の果實は兩端に粘着性の油滴を蓄積する。邊材はクリーム色又は稍ピンク色を帯び、心材は黄色なるも外氣に接すれば次第に赤味ある黄褐色となる。水浸液は濃い赤褐色で、かすかな胡椒臭がある。材質は著しく堅重。耐久力はかなり強い。木理は幾分撚纏して居り、やゝ加工し難い。

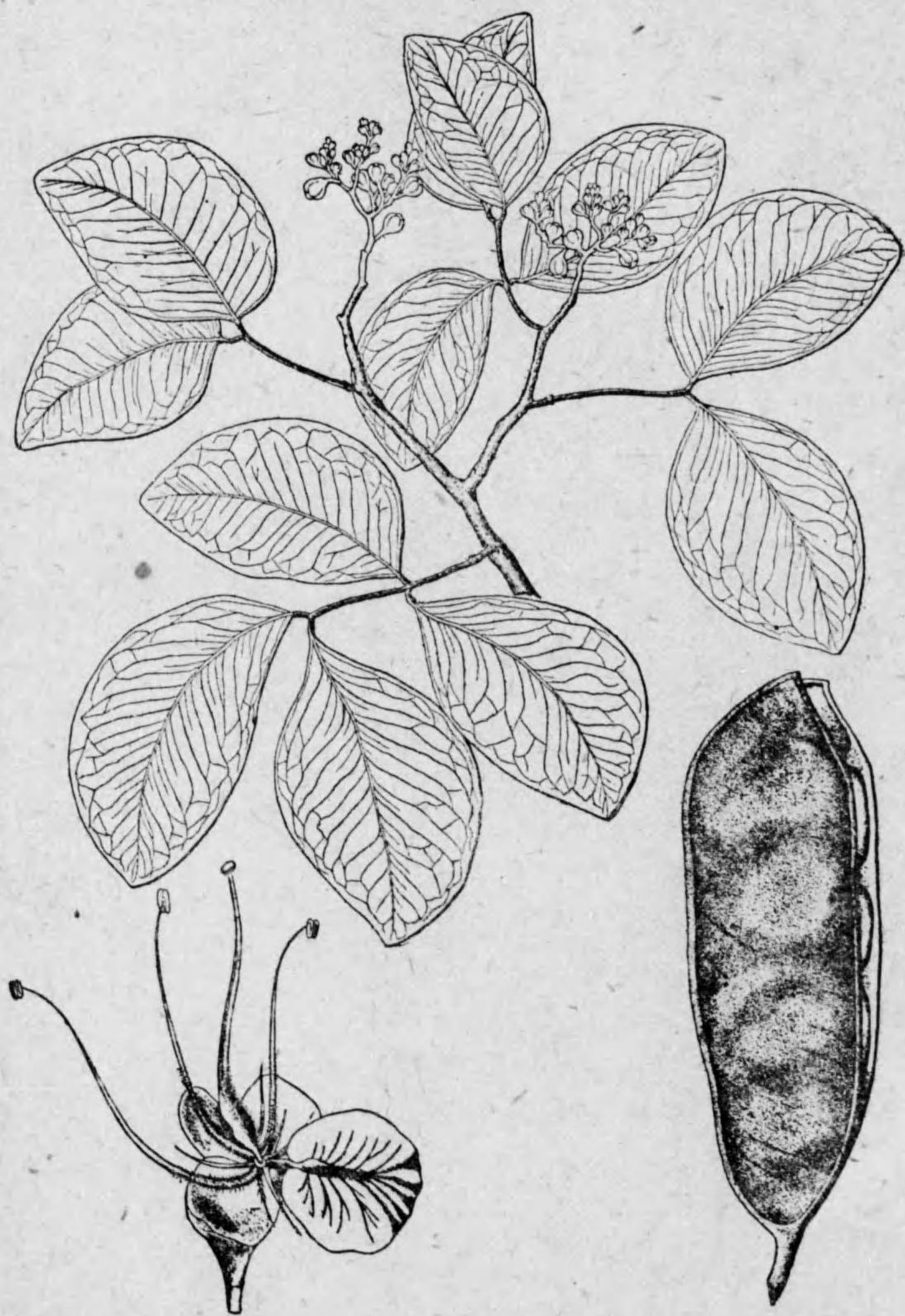
用途、家屋建築(床、内部の組枠、扉枠、柱)、野球用バット、橋梁、海軍用建造物、枕木、家具、箆筒類分布、ルソン島(バレル、タヤバス、カマリネス、ソルソゴン、アルバイ)、ミンドロ島。

學名、シンドロ・スプ (Sindoro supu)

地方名、マラパホ (malapaho) (タガログ語)、ビサヤ語)、マナポ (manapo) (バレル州)、パリーナ (parina) (ビホル語)、ヤカル・ヂラオ (yacal dilao) (タヤバス州)。

## イ ビ ル (Ipil)

樹高三十米乃至四十五米、直径一米五十糎乃至一米八十糎に及ぶが、普通六十糎乃至一米二十糎である。樹幹は板根を有せず、時としては通直、整形なるも往々いびつで畸形となる。屢々根本近くから枝を出し、樹幹十五米乃至十八米に生長するのは稀な大木である。樹冠は大きく不整形で瓶形をな



(挿圖十四) Ipil (*Intsia bijuga*)

左下は花、右下は果莢の開いた部分

す。フィリッピン全島に分布し、海邊、大河口に近い洪涵平原或は低い丘陵に生育する。土壤は砂質で地下水の高い地を好む陽樹である。

樹皮は厚さ五糎乃至八糎、橙色を帯びた灰色を呈し、樹皮を剝離した後の浅い受皿形の窪みは焦灰色である。韌皮は淡褐色でピンク褐色の斑点がある。葉は互生、單純複葉、通例二對の葉片があり、各小葉は平滑、長さ八糎乃至十二糎、幅五糎五糎乃至八糎五糎である。

邊材はクリーム色、心材は新しい時は黄色なるも次第に赤褐色に變ず。よく乾燥した老木の心材はチョコレート色で、導管には往々硫黄色の沈澱物がある。材質は堅重なるも加工は難くはない。

甚だしい耐久力があるから好評ある堅材である。

用途、家屋建築(扉、柱、床張り)、鐵道枕木、道路鋪裝、電信柱、橋梁、造船、高級家具、箆筒。

分布、ルソン島(カガヤン、バレル、サンバレス、バタアン、タヤバス、カマリネス、アルバイ、ソルソゴン)、カミギン島、チカオ島、マスバテ島、ミンドロ島、レイテ島、ギマラス島、チナガット島、バナイ島、ネグロス島、パラワン島、ミンダナオ島(サンボアング、ダバオ、コタバト、スリガオ)、バシラン島、タウイ・タウイ島。

學名 イントシア・ビユガ (*Intsia bijuga*)

近似品種にメリルス・イピル (*Merrill's ipil*) (*Intsia acuminata*)がある。イピルの葉片は二對なるも、

メリルス・イビルは三對である。

地方名、ラビン (Laving) (タババス州)、サンガイ (sangai) (イロカノ語)、タンランガオ (tang-  
langao) (アンボス・カマリネス州)。

イビルは、サモア島ではイフィ・レレ (ifilele)、グアム島ではイフィル (ifi)、ボルネオではミラボ  
ウ (mirabow) マライ半島ではメルボウ (merbow) と稱へられて居る。

#### チンタロ (Tindalo)

樹高二十五米乃至三十米、直径六十糎乃至八十糎、時としては一米二十糎に達する。通常板根を有  
せず、樹幹は十二米乃至十五米で稍整形である。樹冠は全樹高の半分を占め枝延び横に廣く、瓶形を  
なして半開きで、乾季には半ば落葉する。分布は全フィリッピンにわたつて廣汎なるも蓄積が少い。  
海岸沿ひの低い山背、丘陵に、乾燥せる岩石質の浅い土壤を好んで散在するが、稀には二羽柿科林地  
の外側に點在するのを見ることがある。

樹皮は厚さ約一糎、卵黄色で、表面に凹凸があるのは、外層の脱落によつて受皿形の窪みが生じた  
ためである。コルク質の小隆起が無數に密着し皮は渦形に剝離する。韌皮は褐黄色。葉は互生、單純  
複葉、三對(時としては四對)の小葉があり、各小葉は平滑で長さ三糎五耗乃至十糎、幅三糎乃至五

種、裏面に白い蠟粉がある。

邊材は白色乃至クリーム褐色、心材は黄赤色なるも年を経ると共に暗色を増す。材質は堅重、耐久性があり、加工は容易で、木理美しく通直、仕上げれば美觀を呈し、反張せぬ長所がある。

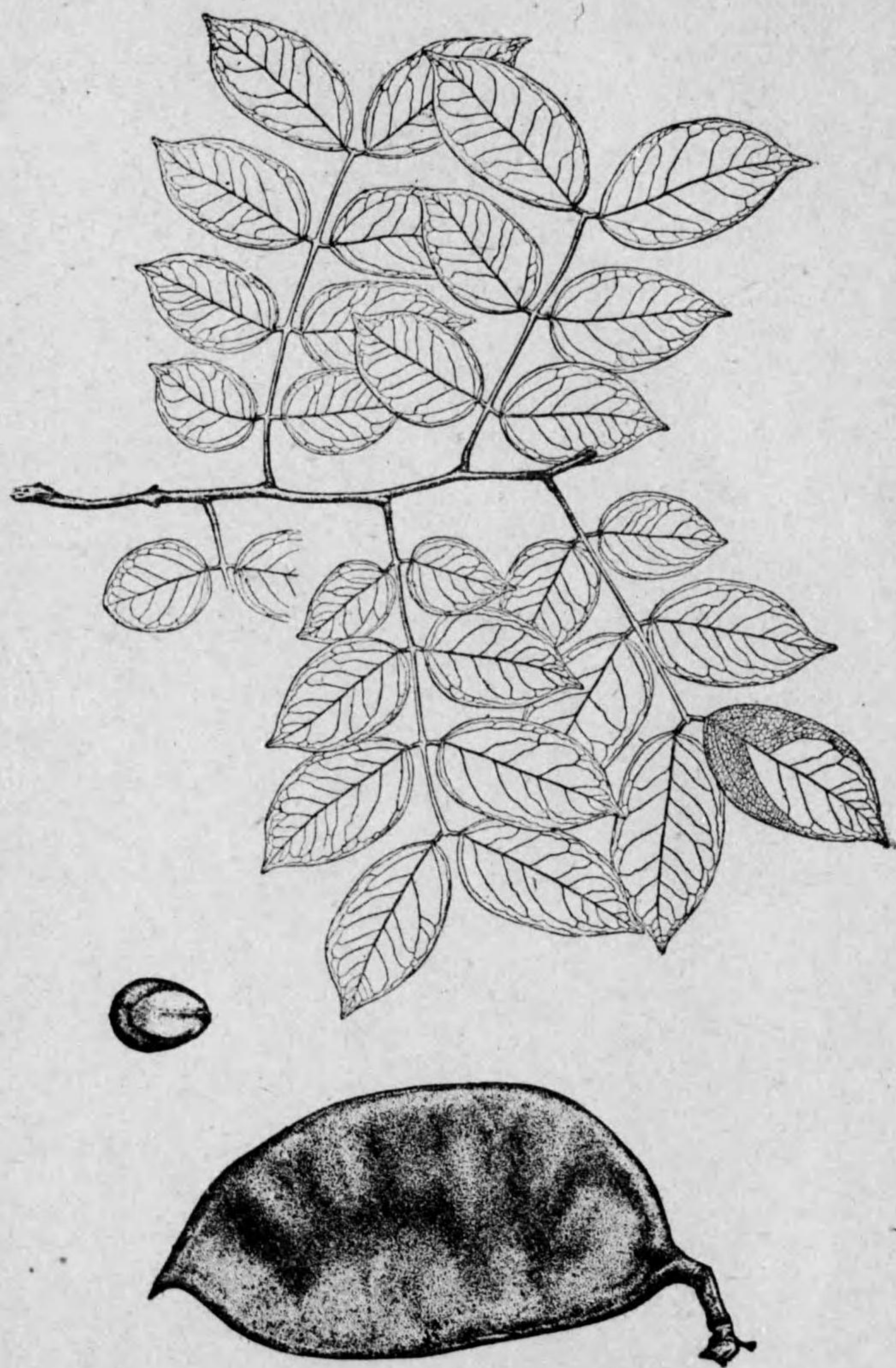
用途、美麗家具、箆筒製造、室内造作(扉、床、階段、羽目板等)、鐵道枕木、造船、建築一般。

分布、ルソン島(カガヤン、イサベラ、イロコス・ノルテ、バングシナン、サンバレス、リサル、バタアン、タヤバス、カマリネス、ソルソゴン)、パラニ島、ポリロ島、チカオ島、マスバテ島、マリンツク島、ミンドロ島、クリオン島、レイテ島、セブ島、ミンダナオ島(サンボアング、コタバト、スリガオ)。

チンダロの學名はパフチア・ロンボイデア (*Pahudia rhomboidea*) で、地方名はアパリット (*apalit*) (バングシナン州)、バラヨン (*balayong*) (ビサヤ語)、バラヨン (*barayong*) (ビホル語)、マガラヤオ (*magalaya*) (ルソン島北部諸州)、ピントク (*pintok*) (サンバレス州)、ウリス (*uris*) (イロカノ語)。

### キョパン (Cupang)

樹高三十五米乃至四十米、直径一米五十種乃至一米八十種で、樹幹は十五米乃至二十米に達す。樹



(挿圖十五) Tindalo (*Pahudia rhomboidea*)

中央は種子、下は果實

幹は大きな板根を有するが概して整形である。樹冠は全樹高の約半分を占め、巨大で瓶形をなし横に擴がつて開く。際立つた乾季のある地方の疎林、再生林に生育し、乾季の明白でない地方では稀に又は全々成育しない。肥沃な土壤と陽光を好むから、パラシ (*Parang*) 森(再生林)、處女林の外郭或は二羽柿科林の空地に成育する。

樹皮は厚さ六耗乃至一耗二耗、褐色又は朽葉褐色。日光に曝されたものは灰色を呈して居る。斷片的な浅い縦條とコルク質の小隆起があるため外觀は粗糙である。韌皮は暗赤褐色を呈し、葉は互生の二重複葉で大きな羊齒形をなす。各葉片は長さ約五耗、裏面は稍白色である。乾季に一週間乃至六週間落葉する。

廣い邊材は新しい中クリーム白色で惡臭を有するが、外氣に曝せば急速に褪色する。心材は直徑六十種以上の樹木にのみ存し、淡褐色である。材質は輕軟、速かに腐朽する。

用途、一時的又は輕建築物、荷箱、靴の木底、マッチの軸木、パルプ。

學名、パルキア・チモリアナ (*Parkia timoriana*)。

地方的名稱はブタリク (*Butarik*) (北部ルソン島)のみである。

分布、ルソン島 (カガヤン、イサベラ、イロコス・スル、アブラ、ベングエット、バンガシナン、タルラック、ヌエバ・エシハ、パンパンガ、ブラカン、サンバレス、バタアン、リサール、タヤバス、



カマリネス)、ミンドロ島、マリントンク島、バラワン島。

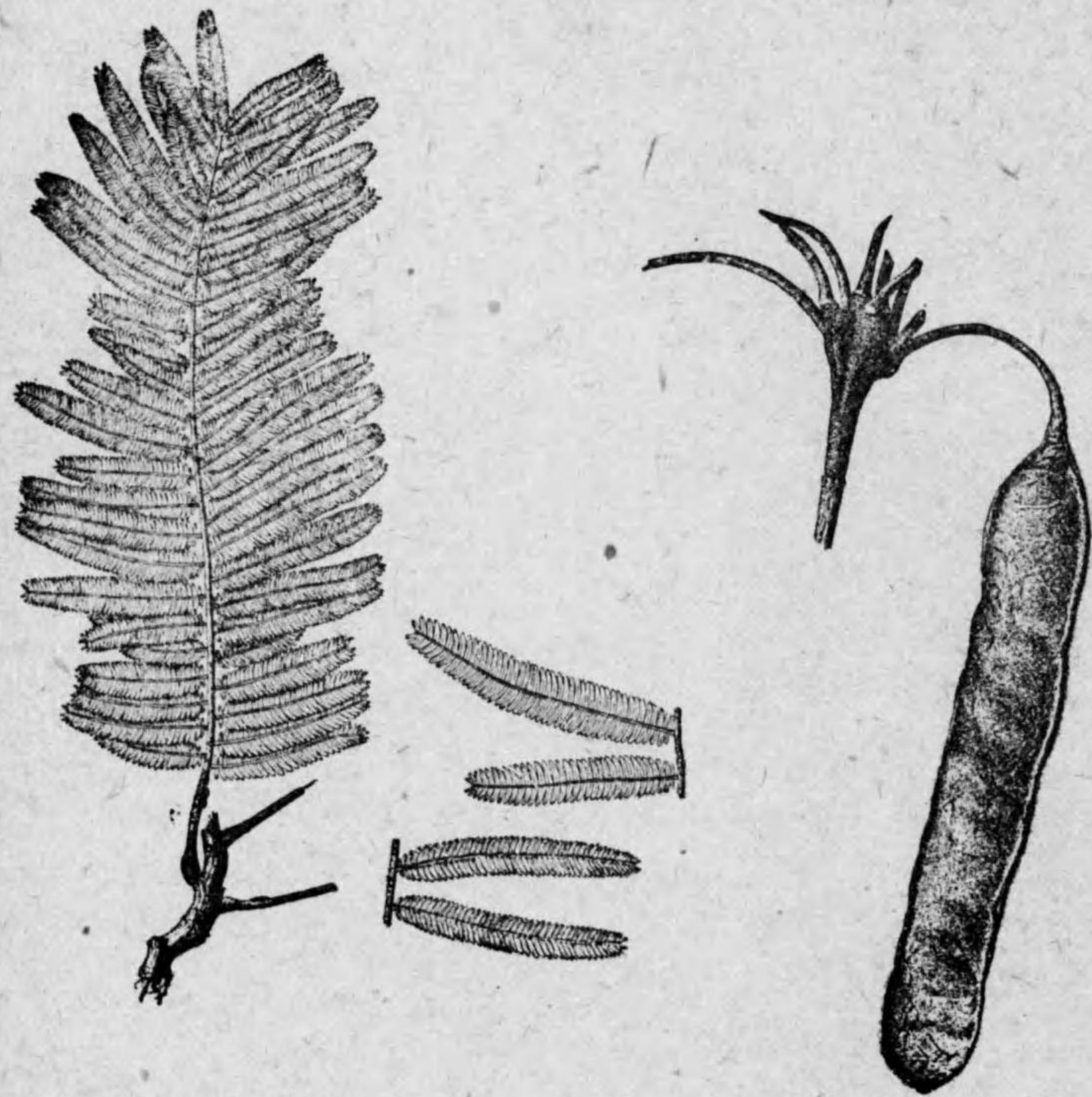
アクレン・バラン (Acleng-parang)

樹高二十米乃至二十二米、直径六十糎乃至九十糎に達する。樹幹は板根を有せず、通直で整形、全樹高の約半分である。樹冠は瓶形をなし、稍横に擴がつて開く。乾季の明白なる地方のみに産し、森林の外郭、多少開豁なるバラン林に生育する。耐火力あり、明らかな陽樹である。土壤は深淺何れにても可。但し深い土壤に生育してゐるを見ることは殆んどない。乾季には二週間乃至六週間で落葉する。

樹皮は厚さ五糎乃至一糎、稚樹の樹皮は平滑で淡灰色なるも、長ずるにつれ稍粗糙となり褐色或は黄色となる。韌皮は淡紅色、放射線状の色淡い條がある。葉は互生、二重複葉。三對乃至五對の羽狀複葉は夫々六對乃至十對の小葉より成る。小葉は裏面が稍白色で、長さ二糎乃至六糎、幅一糎乃至二糎五糎である。

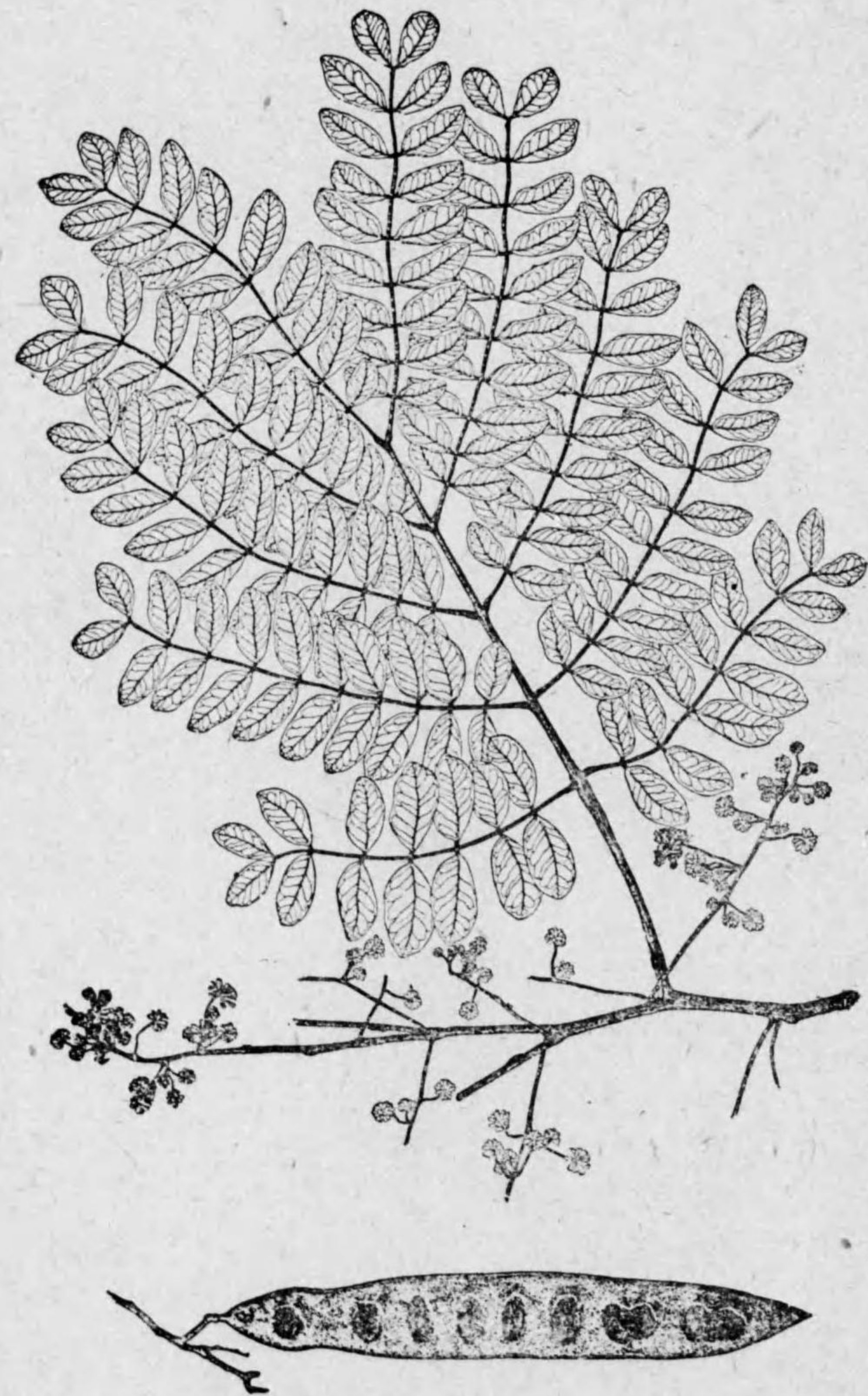
幅廣い邊材はクリーム白色。心材はチョコレート色で光澤があり、濃淡交互の條を有す。材質は堅硬重さは中庸で保存期はかなり長い。時としてはアクレの代用をする。

用途、甘蔗の壓潰器、精米用杵、車輪、農具、彫刻、鐵道枕木、家屋建築。



(挿圖十六) Cupang (Parkia timoriana)

中央は羽狀葉・右は果實の莢



(挿圖十七) Aeleng-parang (*Albizzia procera*)

上は果實の莢、中央は若い花の集合

分布、ルソン島（イロコス・ノルテ、イロコス・スル、アブラ、ベングエット、ユニオン、バンガシナン、タルラック、バンバンガ、リサル、サンバレス、バタアン、カマリネス）、ミンドロ島。

學名はアルビシア・プロセラ (*Albizia procera*)。

地方名はアダアン (*aduan*) (イロカノ語)、アラランガッド (*alalangad*) (タガログ語)、アニナブラ (*aninapla*) (タガログ語)、カライ (*kalai*) (イゴロット語)、カリアル (*karihal*) (サンバレス州)、パラタンガン (*palatangan*) (イロカノ語)。

#### サリンクギ (*Salinkugi*)

南部諸島では樹高二十五米、直径八十糎に達する。樹幹は樹高の半ばを占めやゝ不整形、板根を有せず。樹冠は枝が延びて廣く瓶形又は球形で開く。全島に分布し通例バラン林（再生林）或は疎林に生育する。

樹皮は厚さ約五糎、淡褐色又は濃褐色で、コルク質の小隆起が密着して居る。韌皮は淡紅色、やゝ海綿狀で葉は互生の二重複葉、通例二對の羽狀複葉は二對乃至四對の葉片より成る。各葉片は長さ五糎乃至十四糎、幅二糎五糎乃至八糎で裏面には美しい天鵝絨狀の毛がある。

邊材はクリーム白色。心材は濃褐色乃至類黒色で、濃淡交互の條がある。アクレン・バランに酷似

し堅重は中庸である。

用途、一般家屋建築。南部諸島に於ては家具、室内造作に用ふ。

分布、ルソン島（イロコス・ノルテ、イロコス・スル、ベングエット、バンガシナン、バンバンガ、  
バタアン、リサール、ラグナ、タヤバス、カマリネス、アルバイ）、ミンドロ島、チカオ島、マスバ  
テ島、ギマラス島、サマル島、ネグロス島、ミンダナオ島（サンボアンガ、スリガオ）バシラン島。

學名はアルビシア・サポナリア (*Albizia saponaria*)

地方名はゴゴン・トコ (*gogong-toko*) (タガログ語)、ゴゴ (*Gogo*) (タガログ語)、ゴゴカサイ (*Gogokasai*)

(タヤバス州)、マラトコ (*malatoko*) (リサール州)、マラチカ (*malatika*) (イロカノ語)、ピピ (*pipi*)

(ネグロス島)、チギアン (*tigian*) (ピサヤ語)。

サリンクギといふ名稱はピサヤン語である。

### バ ヌ エ (Banyo)

樹高中庸又は巨大で、樹幹は短かく屢々不整形である。樹冠は開き、乾燥せる海邊の丘陵に生育、  
モラベ林中に散在する。陽樹で乾燥地を最も好む。

樹皮は厚さ五耗乃至八耗、灰色又は褐灰色。角皮質ではないが樹皮の脱落によつて生じた浅い窪み



(挿圖十八) Salinkugi (*Albizia saponaria*)

上は果實の莢、中央は花集



(挿圖十九) Banuyo (*Wallaceodendron ceibicum*)

下は果實の莢、中央は花集

の爲稍粗糙である。鞣皮は暗赤褐色を呈する。葉は二重複葉、三對の羽狀複葉は、五對の葉片より成り、各葉片は平滑で長さ三種五耗乃至八種、幅一種五耗乃至四種である。

材は金褐色でアクレに酷似するが、アクレに比すれば木理が粗く色も淡く、やゝ軟質である。堅重中庸、耐久性があつて加工は易い。

用途、家具、箆筒、彫刻、車體、額縁、室内造作、家屋建築では特に床張り、側面等。

分布、ルソン島(カガヤン、イサベラ、ベングエツト、タヤバス、カマリネス)カミギン島、マスバテ島、ブリアス島、チカオ島、サマル島、ネグロス島。

學名、ワラセオデンドロン・セレベキウム (*Wallacodendron celebicum*)。

地方名、バラヨン (*balayong*) (ピサヤ語)、ダウエル (*dauer*) (カガヤン州)、ルビギ (*lupigi*) (北部ルソン島、モリナ (*molina*) (カガヤン州))。

「バヌヨ」はタガログ語である。

### ア ク レ (Acle)

樹高中庸で直徑七十種乃至一米、稍不整形の樹幹は樹高の半ば又はそれ以下を占む。脚部は擴大するが板根はない。

樹冠は横に延びて開き、乾季にあつては雨季よりも繁茂が疎となる。流れに沿ひ根が容易に地下水に達し得る場所を好んで生育する陽樹である。

樹皮は厚さ八耗乃至一耗二耗、暗褐色又は殆んど黒色である。部厚の小さい鱗状片に蔽はれて特殊の外観を呈す。唾液又は水で摩擦すれば泡を生ず。靱皮は赤褐色で脆い。葉は二重複葉、一對の羽状複葉は三對乃至六對の葉片を有し、頂生の一對は他より大きく、各葉片は長さ四耗五耗乃至十八耗、幅二耗乃至七耗に及ぶ。

邊材はクリーム白色で脆い。心材は暗褐色、美麗で燃纏した木理があり、堅硬で重さは中庸。水浸液は暗褐色で、強い胡椒臭がある。

用途、高級家具、箆筒類製造に好評。その他家屋建築(柱、床板、側面、室内造作)、海軍用建造物、枕木、ギターの側面、彫刻。

分布、ルソン島(イロコス・スル、ユニオン、バンガシナン、ヌエバ・エシハ、リサル、サンパレス、バタアン、タヤバス、カマリネス、ソルソゴン)、マスバテ島、ミンドロ島、ネグロス島、パラワン島。

學名、アルビシア・アクレ (*Albizzia acle*)。印度のピングヅ (*pyingadu*) (*Xylia dolabriformis* Benth) に酷似して居る。



(挿圖二十) *Acle* (*Albizzia acle*)

右は果實の莢

地方名、キタ・キタ (kita-kita) 又は quita-quita) (イロカノ語、バンパンガ州、パンガシナン州)、ラ  
ンギップ (Langip) (ビサヤ語)、タバランギ (tabalangi) (ビサヤ語)。

『アクレ』はタガログ語である。

荳科植物には更に左のやうなものがある。

レイン・ツリー (Raintree) (*Entolobium saman*)…風致及び木蔭を目的として、フィリッピン全島に  
わたつて栽培されて居る。アカシア (*acacia*)、モンキイ・ポッド (*monkey pod*) とも稱せらる。

カマンチレ (Camanchile) (*Pithecolobium dulce*)…樹高短小又は中庸で南米より移植されたものであ  
る。樹皮は皮革を鞣すに用ひ、果肉多き果實は食用となる。

アナガツプ (Anagap) 又はバンシラク (*banslak*) (*Pithecolobium scutiferum*)…矮小又は中庸の樹木  
で、莢は大きく、辨裂深く彎曲し赤色である。材はいくらかの用途がある。

カサイ (Kasai) (*Albizia retusa*)…矮樹で海邊林地に生育する。

アロマ (Aroma) (*Acacia farnesiana*)…輸入種の灌木で、再生林又は草原に散在する。

イビル・イビル (Ipil-ipil) 又はサンタ・エレナ (*Santa elena*) (*Leucaena glauca*)…南米より輸入した  
樹種で、再生林に廣く分布して居る。コゴン草撲滅のため往々栽培することがあり、小灌木で薪材と  
なる。



フィリピン・メスキテ (*Philippine mesquite*) 又はアロマ (*Prosopis vitaliana*)…矮樹で刺があり、メキシコより移植したもので、海邊林に叢生する。

タングリン (*Tanglin*) (*Adenanthera intermedia*)…樹高中庸で林地に散在する。材はイビルに酷似する爲に往々イビルと稱して販賣せらる。

カマトグ (*Kamatog*) (*Erythrophloeum densiflorum*)…樹高中庸、二羽柿科林に疎生し材は有名ではなし。

アリバンバン (*Albangbang*) (*Bauhinia malabarica*)…矮樹でバラン林中に存在し、名稱の示す如く葉は蝶形をして居る。

カナ・ヒスツラ (*Cana-fistula*) (*Cassia javanica*)

矮小又は中庸な樹木でモラベ林に生育する。材色はバヌヨに酷似するも肌理はチンダロに似て居る。外國名の「カナ・ヒスツラ」は輸入木のカシア・ヒスツラ (*Cassia fistula* L.) にも適用されて居る。併し「カナ・ヒスツラ」と云へば普通前述した *Cassia javanica* を指す。

地方名、アナフナン (*anahunan*) (タヤバス州)、バギロロ (*Bagiroro*) (ブリアス島、ソルンゴン州) バラヨン (*Balayong*) (ピサヤ語)、ツラウヘン (*dulaueng*) (諸島)、ツアリン (*tualing*) (サンパラス州)。

カシア・シアメア (*Casia siamea*) 及びヘルトノラム・イネルメ (*Peltophorum inerme*)…輸入樹種で、風致、木蔭を目的として廣く栽培さる。兩者共鮮明な黄色の花を開く。

ファイア・ツリー (*Fire tree*) (*Delonix regia*)…矮小又は中庸の栽培樹で、マダガスカル島より輸入したものである。

シブカオ (*Sibucan*) 又はサツパン (*Coccolpina sappan*)…小灌木、染料抽出のため半ば栽培せらる。

バンハイ (*Balai*) (*Ormosia calavensis*)…樹高中庸、二羽柿科林に疎生する。材は赤色で、市場では少し。

マドレ・カカオ (*Madre-cacao*) 又はカカワチ (*Kakawati*) (*Gliricidia sepium*)…南米より輸入した小灌木、バラン林(再生林)に生育し、主要な薪材である。

カツダイ (*Katadai*) 又はカツライ (*Katurai*) (*Sabania grandiflora*)…矮樹でその白く大きな花は野菜代りとして食す。恐らく輸入樹種であらう。

サンバロク (*Sampalok*) 又はタマリンズ (*Tamarind*) (*Tamarindus indica*)…樹高中庸、市街又は町近くに生育する。アフリカより輸入したものであらう。果實は生食するか肉類と共に調理する。

ムニ (*Bani*) (*Pongamia mitis*)…矮樹で砂多き海岸に生育し、材の利用は地方的である。

ダプダプ (*Dapdap*) (*Erythrina indica*)…樹高中庸、海邊に生育し材は白色で著しく軟。赤色の大き

い花を開く爲観賞用として、又ヘンプの日除けとして栽培される。時としては誤つてファイア・ツリーと稱せらるることもある。

### レモン科又はカムニン科植物 (Lemon, Camuning) (Rutaceae) 芸香科

レモン科植物は矮樹で、樹種はフィリッピン全島に散布して居る。葉は複葉で、油性の小滴(透明點)を有する。

代表的なカムニン (*Murraya exotica* L.) は矮樹で、黄色な材は著しく堅重、杖、クリス(マライ人の短剣)の持手、彫刻に用ふ。黄楊材の好き代用ともなる。他にバナシ (*banasi*) 及びバナチ (*banati*) の名稱がある。

シトラス (*Citrus*) 属の栽培果實はオレンジ(土語ではダランダン (*dalandan*) 又はカエル (*cajal*))、グレイプ・フルーツ (*grape fruits*) スバ (*saba*) 又はルクバン (*lukban*)、ライム果の二品種(ダヤブ及びカラマンシ)として食用となるが野生品種の果實は洗髪、布の漂白に用ふ。  
カユタナ (*kayutana*) (*Fagaya* sp.) は矮小又は中庸の樹木で、材は淡黄色、堅重である。

### 金蓮花科又はピリ科植物 (Canary, Pili) かんらん科 (*Burseraceae*)

金蓮花科植物は複葉、互生で樹皮に脂がある。

ピリ (*Canarium luzonicum*) は商業上「マニラ・エレミ」(地方的にはピリ樹脂、ブレア (*brea*)、ブレア・ブランカ (*brea blanca*) と呼ぶ) と稱する樹脂を産する。同樹種にピリ・ナット (*pili nut*) と稱して、アルモンドに似た脂肪性の食用くるみを産するものがある。

バグサヒンギン (*Pagsahingin*) (*Canarium villosum*) はピリに酷似した樹脂を産する。以上のカナリユーム属の二樹種及びその他の材は軟質又は堅重中庸で、色は淡い灰褐色、時としては淡紅色、木理が通直でやゝ美しい。保存期が短い缺點があるも、土臺となる部分を焼いて用ふれば良好な家屋の柱となる。

カミンギ (*Kanngi*) (*Santiria nitida*) の材は淡褐色、堅重でやゝ強靱、板割れは稀なるも反張が幾分激しく加工し難し。

ボゴ (*Bogo*) 又はバグリブス (*Bagulibus*) (*Garuga abilo*) はおほむねモラベに交つて生育する。幹は短く肥大して枝延びが廣い。邊材は濁褐色、心材は暗赤褐色で類黒色の條又は斑點がある。堅重中

庸、木理はやゝ粗くして不揃ひ、加工は難くはない。

### マホガニー科又はカラントス科植物 (Mahogany, Calantas) (Meliaceae) せんだん科

本科の代表的樹種はフィリッピンに多いが木材市場に出るのは四種である。夫々用途のある樹木は多々あるが、識別が曖昧であるから遂一此處に述ぶることは出来ない。フィリッピン外に産するせんだん科用材樹木には、西印度杉 (Cedrela odorata L.)、フィリッピン・マホガニー (Toona spp.)、マホガニー (Swietenia mahogany L.)、サレン・マホガニー (Chloroxylon swietenia DC) (エングラー (Engler) はこれを芸香科に分類す)、アフリカ・マホガニー (Khaya senegalensis) などがある。カラントス (Calantas) 樹種は、短くして太い小枝の先に大きな互生複葉が群生して居るから、容易に識別することが出来、樹高は短小又は中庸、樹幹は短いが直径は大であり、材には強弱の臭氣がある。

### カラントス

樹高四十米乃至五十米、直径一米五十種以上 (概してこれより小) に及ぶ。樹幹は通直、圓筒形で樹高

の約半ばを占む。樹冠は横に廣がりてやゝ開く。フィリッピン全島に分布するが、一ヶ所の蓄積量は少ない。小流に沿ひてモラベと共生するか、洪涵平野のラウアン・ハガチャク (Lauan-laguchak) 林に生育する。乾燥地に生育する場合もあり陽樹である。

樹皮は厚さ五耗乃至一耗、褐色或は赤褐色、長方形鱗片狀に脱落し、端は稍外側にまくれる。小木の樹皮には往々縦線がある。靱皮は赤褐色で淡色の條があり、強烈な杉香がある。葉は複葉、互生、小枝の端に群生し葉片は七對乃至十一對、平滑で (若葉はさうではない)、長さ五耗乃至十三耗、幅三耗五耗乃至六耗に及ぶ。

邊材は極淡い赤色、心材は淡乃至濃赤色。材には強烈な杉香があり、輕軟で木理は粗く、通直である。保存期長く、白蟻、菌類の侵害に抵抗力がある。

ミンダナオ島、パラワン島に産するカラントスの一種には強臭がなく (稚樹には臭氣あり)、鳥目様の木理を有するから、鳥目カラントス又は燃纏カラントスと稱するものがある。

用途、カラントスは西印度杉に著しく近似し、又これと同様に、美麗家具、箆筒、シガー・ボックス製造に珍重さる。フィリッピン・マホガニーと稱せられることもある。その他模型製造、彫刻、天井、扉、仕切、ギターの側、バンカスに用ふ。

分布、ルソン島 (カガヤン、イサベラ、ポントック、バンガシナン、サンバレス、バタアン、タヤ

バス、カマリネス、ソルソゴン)、ミンドロ島、サマル島、レイテ島、ネグロス島、パラワン島、ミンダナオ島(サンボアンガ、バシラン)。

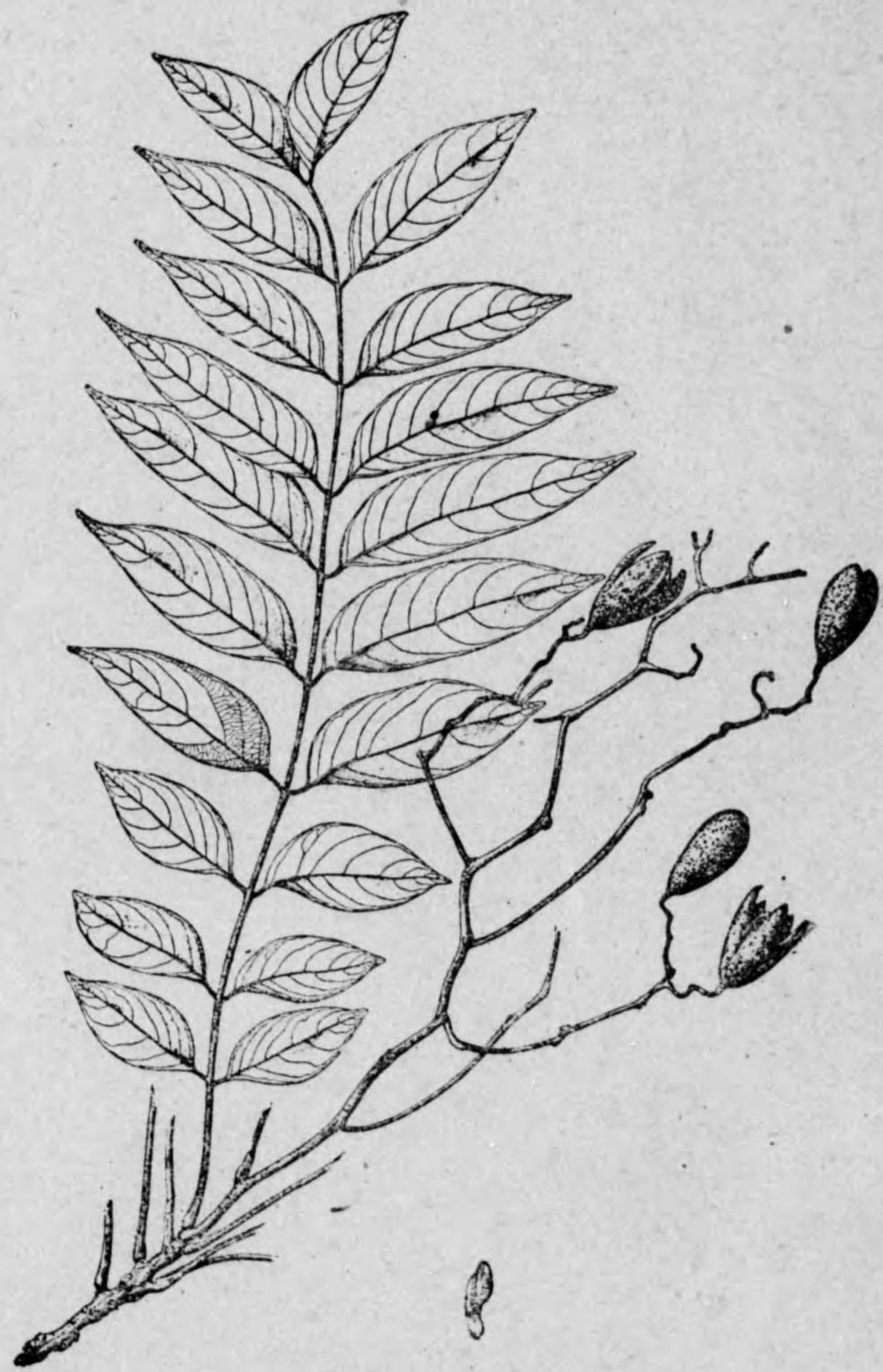
學名はツリー・カラントス (*Toona calantas*)。ツリーナ属にはこの他數名の品種がある。

地方名、バロンカウット (*Balongkaut*) (ビコル語)、バンチノン (*bantinon*) (ヌエバ・ビスカヤ州) ダンガ (*danga*) (諸島)、ダニッガ (*danigga*) (北部ルソン島)、ダヌブラ (*danupra*) (イロカノ語)、カランタッド (*Kalantad*) (パンガシナン州)、カンチンゲン (*kantingen*) (サンバレス州、イロカノ語) ラニグダ (*lanigda*) (ビサヤ語、ビコル語)、ラニプガ (*lanipga*) 及びその類似語 (ビサヤ語、ビコル語)、ポラク (*porak*) (イロカノ語)、サゲッド (*sagedd*) (パラワン島)、サンダナ (*sandana*) (ビサヤ語)、タラタラ (*taralara*) (タガログ語)、「カラントス」はタガログ語による普通名稱である。

### サントル (*Santol*)

樹高二十米、直径七十糎に達する中庸樹木である。樹幹は通直、整形で短かい。樹冠は繁茂がかなり密であるが簡潔である。

樹皮は厚さ四糎乃至七糎、灰色或は灰褐色、稍平滑で美麗な縦條があり、コルク質の小隆起が密着して居る。表皮の直下は斑綠色で靱皮の表面に近い部分はピンク赤色、内部へ行くにつれ極淡いピン



(挿圖二十一) Calantas (*Toona calantas*)

右は開いた果實と未開の果實、右下は種子



(挿圖二十二) Santol (*Sandoricum indicum*)

右下は果實、左下は果實の横断面

ク色となる。

葉は互生、複葉、三個の小葉は長さ十三糎乃至十六糎、幅六糎乃至九糎、裏面に美しい天鵝絨状の小毛がある。

邊材、心材共に淡紅褐色、材質堅重中庸で、かすかな芳香があり、水に浸せば殆んど赤色となる。木理通直で加工し易い。

用途、輕建築用、特に家屋建築、彫刻、神像、帽子の木型、家具。

學名、サンドリカム・インヂカム (*Sandoricum indicum*)、一般には『サントル』の名稱で呼ばれ、果實食用の爲フィリッピン全島に栽培されて居る。

#### マラサントル (Malasantol)

樹高二十米乃至二十五米、直径八十糎に達し、樹皮は厚さ四糎乃至七糎、灰色又は灰褐色を呈する。韌皮は焦赤色。葉は互生、三小葉より成る複葉であり、各小葉は長さ六糎乃至十八糎五糎、幅四糎乃至九糎、平滑又は類平滑である。

邊材はクリーム白色乃至鮭肉紅色、心材は莖色を帯びた赤褐色。材質はサントルより稍堅重、木理は通直で粗く、サントルに酷似した芳香がある。

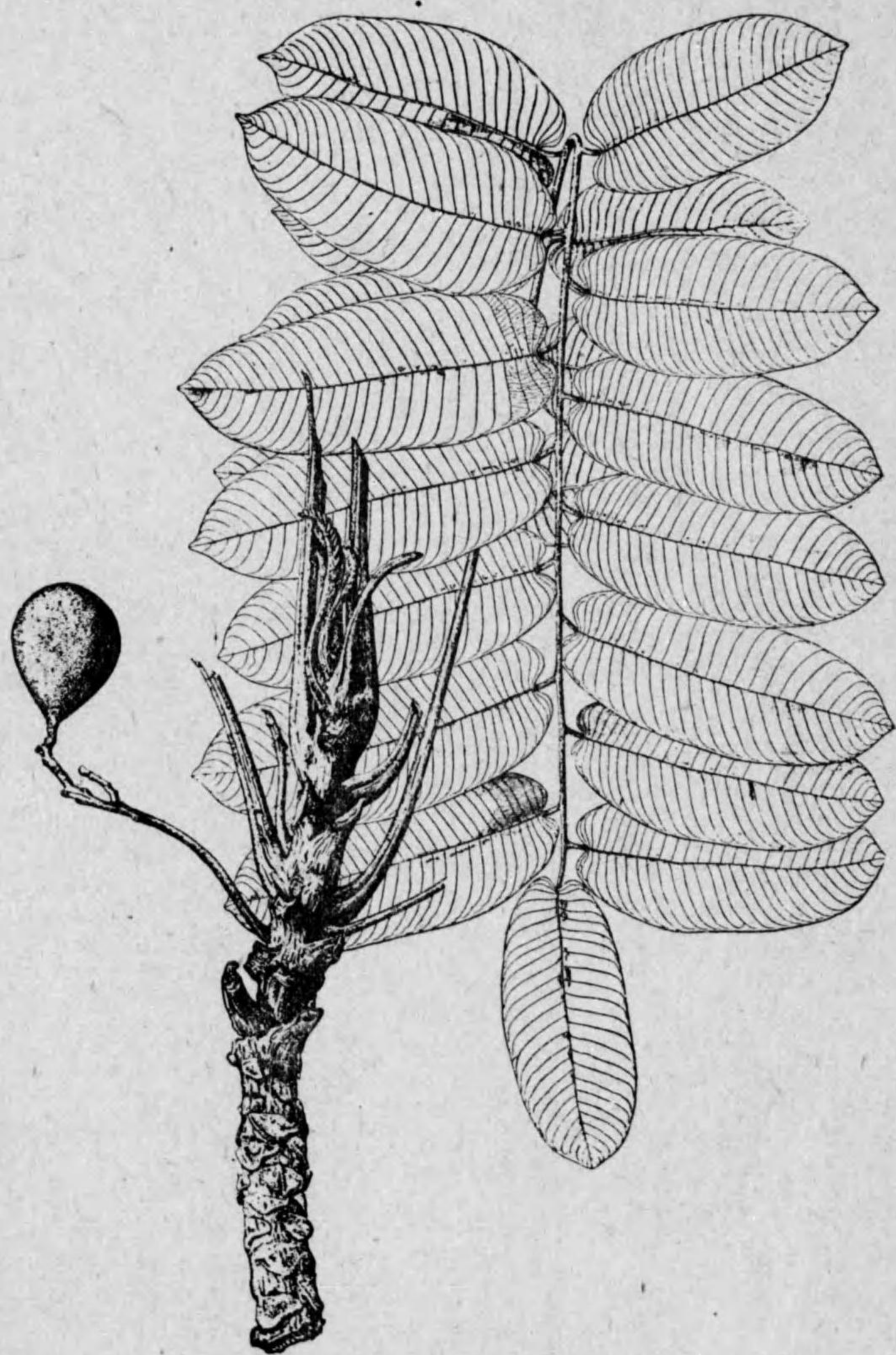
分布、ルソン島（ヌエバ・ビスカヤ、タルラク、サンバレス、バタアン、リサル、ラグナ、タヤパス）、ミンドロ島、サマル島、ネグロス島、サンボアンガ地方。  
 學名はサンドリカム・ヴィダリイ (*Sandoricum vitalii*)。  
 地方名はビオット (*biot*) (ヌエバ・ビスカヤ州)、ボクボク (*bok-bok*) (タヤバス州)、マグサントル (*magsantol*) (サンバレス州)、マラボホナオ (*malabonano*) (サマル島)、サントル (*santol*) (ネグロス島、リサール州)。

ツカン・カラオ (*Tucang-calao*)

樹高二十米乃至二十五米、直径六十糎乃至八十糎に及ぶ。樹幹は整形で全樹高の約半分を占む。乾燥せる海邊の丘陵に生育し、通常バンサラギン (*bansalugin*) 及びヅンゴン (*dungon*) に交つて散在して居る。

樹皮は厚さ五糎乃至一糎、淡灰色又は灰色で明白なる隆起性角皮で鞣皮は焦赤色である。  
 葉は互生、約十二對の小葉より成る複葉、小葉は長さ十糎乃至二十四糎、幅二糎五糎乃至八糎で、裏面に類白色乃至锈褐色の小毛が密生して居る。

邊材は類灰色、心材は褐赤色、美しい木理が撚纏し、刺戟性の杉香がある。材質堅重、材色木理が



(挿圖二十三) Tucang-Calao (*Aglaia clarkii*)

左上は果實

美しいからマホガニーに匹敵する。

用途、家具、床張り、家屋建築一般（特に内部造作）、造船。

分布、ルソン島（パンガシナン、バタンガス、タヤバス、カマリネス、アルバイ）、マスバテ島、ブリアス島、セブ島。

學名、アグラリア・クラルキイ (*Aglaia darkii*)。

地方名、アラモグ (*alamog*) (アルバイ州)、バルイ (*balui*) (パンガシナン州)、カンスヨッド (*Kansyod*) (アルバイ州)、ブリアス島)、マコバ (*makopa*) (バタンガス州)、サルダナ (*saldana*) (セブ島) 「ツカン・カラオ」といふ名稱は一般取引で使はれて居る。

### タビギ (Tabigi)

樹高中庸樹幹は短かく肥大にして不整形、樹冠は横に延び半ば開く。フィリッピン全島の紅樹林<sup>マングローブ</sup>地に散在する。

樹皮は厚さ二耗乃至四耗、平滑で肉桂褐色を呈し、時としてはコルク質の平行彎曲線が附着して居る。韌皮は淡紅色。葉は互生複葉で、倒卵形の小葉は平滑、長さ八耗乃至十二耗、幅三耗五耗乃至六耗である。



邊材は淡褐赤色、心材は暗赤色を呈し、板は堅重中庸で木理は漣形の美しい模様となる。保存期長く、乾燥すれば僅かに収縮する。

用途、家具、サンダル、地方によつては小家屋建築、薪に用ふ。樹皮は染料として廣い用途がある。

學名、クシロカルプス・オボバタス (*Xylocarpus obovatus*)。

地方名、ルバナヨン (Lubanyong) (カガヤン州)、ニギ (*nigi*) (タガログ語)、タウイギ (*tawigi*) (ミンダナオ島)。

### ブラガオ (Plagao)

樹高中庸又は巨大で、樹幹は類整形、長さ十八米以上、直径六十糎乃至八十糎に及ぶ。フィリピン全島の紅樹林に存在する。ミンダナオ島のダバオ地方では最もよく生育し、小地面に純林をなして居る。

樹皮は厚さ三糎乃至七糎、赤味ある灰色又は暗褐色で、屢々灰色、赤灰色交互の垂直線があり、不整形の隆起を有し、或は著しく粗糙であり、韌皮は赤色。

葉は互生、複葉、小葉は平滑、革質で長さ九糎五糎乃至十二糎、幅三糎乃至七糎に及ぶ。

邊材は褐色であるが淡い赤味があり、心材は暗赤色で漣模様をなし材質堅重中庸。耐久力があつ

て、海中の朽に用ひても長く保つ。家具材としてはマホガニーに匹敵する。

學名、クシロカルプス・グラナタム (*Xylocarpus granatum*)、クシロカルプス属の第三樹種もフィリッピンにある。

アグライア (*Aglaia*) 属、アムーラ属 (*Amora*)、チンケストーン属 (*Chisocheton*)、ヂソクシラム属 (*Dysoxylum*) の各樹種は多數フィリッピン全島に散在し、特に二羽柿科林に多い。併しこれらの樹種を明確に識別することは不可能である。

アガル (*agaru*) (ヂソクシラム属の一種か?) の材は黄金色で木理美麗、堅硬で稍重し。マニラ市場に少量出廻る。縞子木サナシツトドの如く仕上げれば美麗。タガログ語で「クリン・マヌク (*kuling-manuk*)」及びビサヤ語で「ミアオ (*miao*)」と稱する二種の樹木は硬度その他の特性がアガルに酷似する。

アグライア・ハルムシアナ (*Aglaia harmsiana*) はバタアンでマラツンバガ (*malatumbaga*) としよ。タヤバス及びカマリネスから産するマラサギン (*malasging*) は多分アグライア・ハルムシアナ (*Aglaia harmsiana*) と同種であらう。これは暗赤色 (ツカン・カラオ (*tukang calao*) に稍酷似) で耐久力が著し。

以上述べた種属の堅柿樹種は貴重材であるが、蓄積少なく、加之樹幹が短く形が悪いため、市場には少な。

ランソネス (*Lansium demeticum*) は果實採集のために栽培されて居る。

**護謨科又はビナンガ科植物 (Rubber, Binunga)**  
**(Euphorbiaceae) たかとうだい科**

材用としては重要ではないが、樹種は極めて多く、殆んど全て矮樹である。二羽柿科林の下生えとして顯著であり、再生林の雑草的存在でもある。

葉は通常互生の単葉である。但し、ヘベア・ブラシリエンシス (*Hevea brasiliensis*) 及びビスチョビア・シヤバニカ (*Bischofia javanica*) は三小葉を有し、マニホット・グラシオビイ (*Manihot glaziovii*) は深い辨裂によつて三個乃至七個に分れた掌狀葉を有する。

**下 生 樹 種**

二羽柿科林の下生えする樹種は多い。主要なものを挙げれば、

ビグナイ・ララキ (*biguai lalaki*) (*Aporosa sphaeridophora*)。

マラビグナイ (*mala biguai*) 又はカビン・グバット (*kaping-gubat*) (*Aporosa symplococifolia*)。

ブトン・マヌク (*butong manuk*) 又はタリモルン (*talmorong*) (*Cyclostemon microphyllum*)。

デラク (*dilak*) (*Baccaea tetrandra*)。

以上何れも稀に、直徑十五種以上、樹高十米に達し、判然たる下生え樹木であり、樹蔭地にも成長する。

**カインギン種類**

(森林を焼き拂つた後に生える樹種)

ハミンダム (*hamindang*) (*Macaranga bicolor*) 及びビメンガ (*binunga*) (*Macaranga tanarius*) は森林伐採後直ちに生え出る二番生えで、ホマランタヌ (*Homalanthus*) 樹種特にバランチ (*Balanti*) (*H. populneus*) と共に純林を形成して居る。

二羽柿科森林に散在するマカラング (*Makalanga*) 属は繁殖著しく、他の樹木を壓制する力がある。葉は何れも楕状、バランチの葉はハート型で樹木は細長い。以上の樹種はヒンラウモ (*Mallotus ricinoides*) 及びアリム (*alim*) (*M. mollecanus*) と共に成長が速く、年を経ずして種を散布する。

ピナユユ (*binayuyu*) 又はインヤム (*inyam*) (*Antidesma ghaesambilla*)。

タニギ (*tanigi*) (*Antidesma edule*)。

ビグナイ (*biguai*) (*Antidesma bunius*)

以上三種並びに、アンチデスマ属のその他の樹種は草原に生育する矮樹である。ピナユユには耐火

の特性があり森林を焼却した後のコゴナレス草原に獨り存在を恣いませしにする。

#### ゴム産出樹種

バラゴム (*Hevea brasiliensis*) 及びセアラゴム (*Ceara rubber*) (*Manihot glaziovii*) はフィリッピンに輸入されたものである。

#### 材用樹種

ツアイ (*Tuai*) 又はトック (*Toog*) (*Bischofia javanica*)

フィリッピン全島に分布する高い樹木で、川邊に孤立して居る。樹幹はかなり整形、短くして板根を有せず、樹冠の横に擴がつた陽樹である。樹皮は暗褐色で感觸柔かく、薄く大きな鱗狀に脱落する。韌皮は赤色で、稀薄な暗赤色の乳液を有する。葉は互生、三葉片の複葉で平滑、縁は鋸齒狀となる。邊材は淡クリーム色、心材は赤色、堅重中庸である。

グバス (*Gubas*) 又はビヌアン (*binuang*) (*Erdospermum peltatum*)。

ルソン島、ミンドロ島の二羽柿科森林に疎生する高い樹木で二羽柿科植物と高さを競ふて居る。樹幹は通直、整形で顯著でない板根がある。樹皮は厚さ四耗乃至一耗、橙色を帯びた淡灰色であり、韌

皮は黄金色で悪臭がある。葉は互生、楕狀で小毛に覆はれる。邊材、心材共に淡黄色で、材質輕軟でマッチ、輕い箱の製造に用ひらる。

ハミンダン (*Hamin dang*) 及びビヌンガ (*Binunga*) は再生林に生育する矮樹であるが、時としては處女林で第二位程の高さに成長することもある。葉は平滑、互生で楕狀をなし、裏面は白色、樹皮は褐色乃至淡褐色で、板は色淡く輕い。マッチの製造に用ひらる。

シクロステモン (*Cyclostemon*) 屬の數樹種、特に北部諸州産のチナン・パンタイ (*Tinan-pantai*) 又はチラ・チラ (*Dila-dila*) (*C. bordenii*) 並びにミンダオ島のバナウイ (*Banawi*) (*C. grandifolius*) は二羽柿科森林で第二位程度の高さに成長する。

バナウイは樹幹通直、整形で著しい板根がある。樹皮は厚さ一耗、褐色或は黄褐色で、コルク質の小隆起が密着する部分以外は平滑である。韌皮は斑黄色なるも白色の放射組織がある。甚しく脆弱で、心材はクリーム黄色、乾燥すれば褐色となり黑色の條が現はれる。邊材は心材より色淡く、材質は堅重中庸である。地方的に一般建築用として用ひらる。

チナン・パンタイはバナウイより矮小なるも他の點では近似して居る。

#### その他の樹種

ルンバン (Lumbang) 又はビアオ (Biao) (*Aleurites moluccana*) 並びにバルカナッド (Balukanad)  
 又はルンバン (*Aleurites trisperma*) の種子から蠟燭用油脂が製出される。  
 ビグナイと稱するアンチデスマ (主としてアンチデスマ・ブニウス) (*Antidesma bunius*) の果實は  
 食用に供せらる。  
 ツバ (Tuba) 又はフィジック・ナット・ツリ (*Physic nut tree*) (*Jatropha curcas*) は輸入種で、生垣用  
 に廣く植ゑられ、その堅果は製薬、布の漂白に用ひらる。  
 バナト (Banato) (*Mallotus philippensis*) は處女林、再生林に生育する矮樹で、その果實から製した  
 粉末は染料、薬石として用途がある。

**漆科又はマンゴ科植物 (Sumac, Mango)**  
**Anacardiaceae (漆樹科)**

用材として顯著なるものは二三種で、數種のは果實食用のため栽培され、葉は單葉又は複葉で  
 互生である。

アムギス (*Amuguis*)



(挿圖二十四) Amuguis (*Koordersiodendron pinnatum*)

右は果實

樹高三十米乃至四十米、直径一米二十糎で、その中十八米乃至二十米は用材となる。幹樹は概ね通直、圓筒形であるが、時としては稍彎曲し不整形な圓筒形のものもある。板根著しく特に老樹にさうである。樹冠は全樹高の約半ばを占め繁茂は密である。ラウアン・ハガチャクと交つて最もよく生育し、ラウアン・アピトン林中に散在することもあり、川邊を好み、土壤はかなり濕潤なるを良とする陽樹である。

樹皮は厚さ八糎乃至一糎五糎、暗褐色又は類黒色で、稍明白なる隆起線があり、韌皮は淡紅色乃至赤色で、表皮の溝の直下に當る部分には極く淡色の縦線がある。

葉は複葉、間隔狭い互生で小枝の先に群集する。十三對乃至十六對の葉片は長さ七糎乃至十六糎、幅二糎乃至五糎である。平滑で表面は光澤ある綠色、裏面は黄綠色、葉脈は赤色を呈し、主葉柄には小毛がある。常緑樹なるも乾季には樹冠の繁茂が疎となる。

邊材は淡赤色、心材は赤色、堅硬で重さは中庸、地に接觸せざるか又は露出せざれば保存期が長

用途、家具、仕切、海軍用建造物、車輛、特に床板には好適である。  
分布、フィリッピン全島に分布す。

學名、コオルデルシオデンドロン・ピナタム (*Koordersiodendron pinnatum*)。

地方名はアンボギス (Ambogis) (ビサヤ語)、アンボポット (Ampopot) (カガヤン州)、バンカハシ (Bankalasi) (イロカノ語)、バンカラリ (Bankalari) (イロカノ語)、ダンギロ (Dangilo) (タガログ語)、ガギル (Gagil) (モロ語)、カロンゴダ (Karogkoda) (ヨロル語)、ラコ・ラコ (Lako-lako) (ユサヤ語)、マガリバス (Magalibas) (モロ語)、マルサントム (Marsantog) (カガヤン州)、パロサント (Palosanto) (タガログ語)、サンビユラウアン (Sambulanau) (ビサヤ語)、ピコル語)、ウリサン (Wirisan) (カガヤン州)。

『アムギス』はタガログ語の通稱である。

ダ オ (Dao)

樹高三十五米乃至四十米、直径一米乃至それ以上に達し、樹幹は十八米乃至二十米で顯著な板根がある。板根より上位は整形であるが、板根との接点附近並びに大枝の接点近くには往々堅溝がある。樹冠は全樹高の約半ばを占め、横に擴がつて開放し、枝は大きい。分布廣く、普通アムギスに交つて、低地、川邊、或は濕氣ある傾斜地に生育する。濕潤な土壤と陽光を最も好む。

樹皮は厚さ八耗乃至一釐、新樹皮は淡褐色であるが古ぶれば鐵灰色となる。脱落樹皮は大小の渦形をなす。木栓質の直下は赤色の薄層となり、その下は極淡紅色の海綿質層で邊材に近づけば赤色と



(挿圖二十五) Dao (Dracontomelum dao)

左上は花集、左下は果實

なり、韌皮は纖維質である。

葉は互生、複葉で堅牢な小枝の先に密集する。五對乃至七對の葉片は各々長さ五糎乃至十五糎、幅四糎五毫、平滑で光澤があり、淡綠色を呈して居る。

邊材は大で色淡く、心材は褐灰色で黒色の條があり、材は堅重中庸。

用途、輕建築物、バンカス、桶、床張り。狭い心材は磨けば美麗になるから或程度家具の製造に用ひらる。

分布、フィリッピン全島に分布して居る。

學名、ドラコントメラム・ダオ (Dracontomelum dao)。

地方名、バツアン (Batuan) (ビサヤ語)、カマラク (Kamarak) (北部ルソン島)、ラミオ (Lamio) (タガログ語)、マライヤオ (Malaiyao) (タガログ語)、ママカオ (Mamakao) (ダバオ地方)。

『ダオ』はタガログ語の名稱で一般に通用する。

#### バリンハサイ (Balinhassy)

樹高中庸であるが例外として二十五米乃至三十米に達するものもある。樹幹は通直、類整形で十五米乃至十八米、樹冠は略ぼ開き、乾季に半ば落葉する。通常アムギス、ダオと共に生育する陽樹であ

る。

樹皮は厚さ八耗乃至一種、極めて平滑であるが、時としては無数の小瘤が附着して居る。色は灰黄色を帯びた褐色。葉は單葉、長さ十種乃至三十種、幅三種乃至九種で、太い小枝の先に密に互生して居る。

邊材は大で色淡く、心材は赤褐色。軟弱乃至堅重中庸で屢々無数の小瘤がある。木理は通直、美麗で加工し易い。

用途、箱、輕建築物、安價な家具、シガー・ボックス、樹。

アムギスの代用として使用するが、アムギスに比すれば色が淡く、輕軟で木理が粗糙である。分布、フィリッピン全島の低地に分布する。

學名、ブチャナニア・アルボレセンス (*Buchanania arborescens*)。

地方名、アナム (Anam) (ビサヤ語)、アランゲス (Aranges) (カガヤン州)、バグリバス (Baguilbas) (ミンドロ州)、バランガ (Balanga) (ギマラス島)、バラヨホット (Balayohot) (タガログ語)、バリーゴホット (Baligohot) (アンボス・カマリネス州)、バンカラウアン (Bankaluan) (タガログ語)、ベオバヤノ (Beobayano) (スリガオ州)、ボロアン (Boruan) (バンガシナン州)、ヂラアン (Dilaan) (サンバレス州)、ガンガ (Ganga) (カガヤン州)、フボン・フボン (Hiponghupong) (タヤバス州)、カミ

ン (Kaning) (サンバレス州、バンガシナン州)、カンテン (Kanteng) (アブラ州)、リガス (Ligas) (アンボス・カマリネス州)、リンガブヌ (Lingabunu) (バシラン島)、マラバルヌ (Malabalanu) (ミンドロ州)、マラリガス (Maligas) (タヤバス州)、パレン (Paleng) (カガヤン州)、プンブソ (Punpuso) (ミンドロ島)、タンガンタン (Tangantang) (チカオ島、マスバテ島、タヤバス州)。

漆樹科には更に左の如きものがある。

ラミオ (Lamio) (*Dracontomelum eumingianum*)…巨木でダオに著しく酷似するが、葉片はダオより大きく裏面の中肋上に小毛がある。

パフタン (Pahutang) (*Mangifera altissima*)…河邊の低地に生育する巨木で、葉は互生單葉、材はパリンハサイに酷似するが心材は狭く暗褐色を呈して居る(パリンハサイの心材は赤褐色である)。

リバス (Libas) (*Spondias pinnata*)…材は軟でマッチの軸木に用ふ。

リガス (Ligas) (*Semecarpus perrottetii*)…樹高中庸、葉は互生單葉で、材はアムギスに酷似し、リガスの葉は接觸すれば有毒で毒蔓の如き作用をする。

カソイ (Kasoi)、バルビッド (Balubad) 或は檳如樹 (*Anacardium occidentale*)。

シルエラス (Ciruelas) (*Spondias lutea*)。

マンギフェラ・インヂカ (*Mangifera indica*)。



以上三種は果實食用の爲栽培され、マンギフエラ・インヂカの果實は有名なマンゴ（或はマンガ）である。

製本控		何	第	號
頁	號	年	月	日
933	420			
書名〔南方園研究會〕研究資料（第14輯，第15輯）				
著者 南方園研究會 編				
受入 18年 5月 11日				2冊
備考				

以上三種は果實食用の爲栽培され、マンギフエラ・インヂカの果實は有名なマンゴ（或はマンガ）である。

昭和十八年三月廿五日 印刷  
昭和十八年三月卅一日 發行

【非賣品】

著作發行  
兼印刷者 竹 井 十 郎  
東京市京橋區木挽町三丁目十一番地

印刷所 東京市神田區旅籠町二ノ二  
廣 業 館 印 刷 所

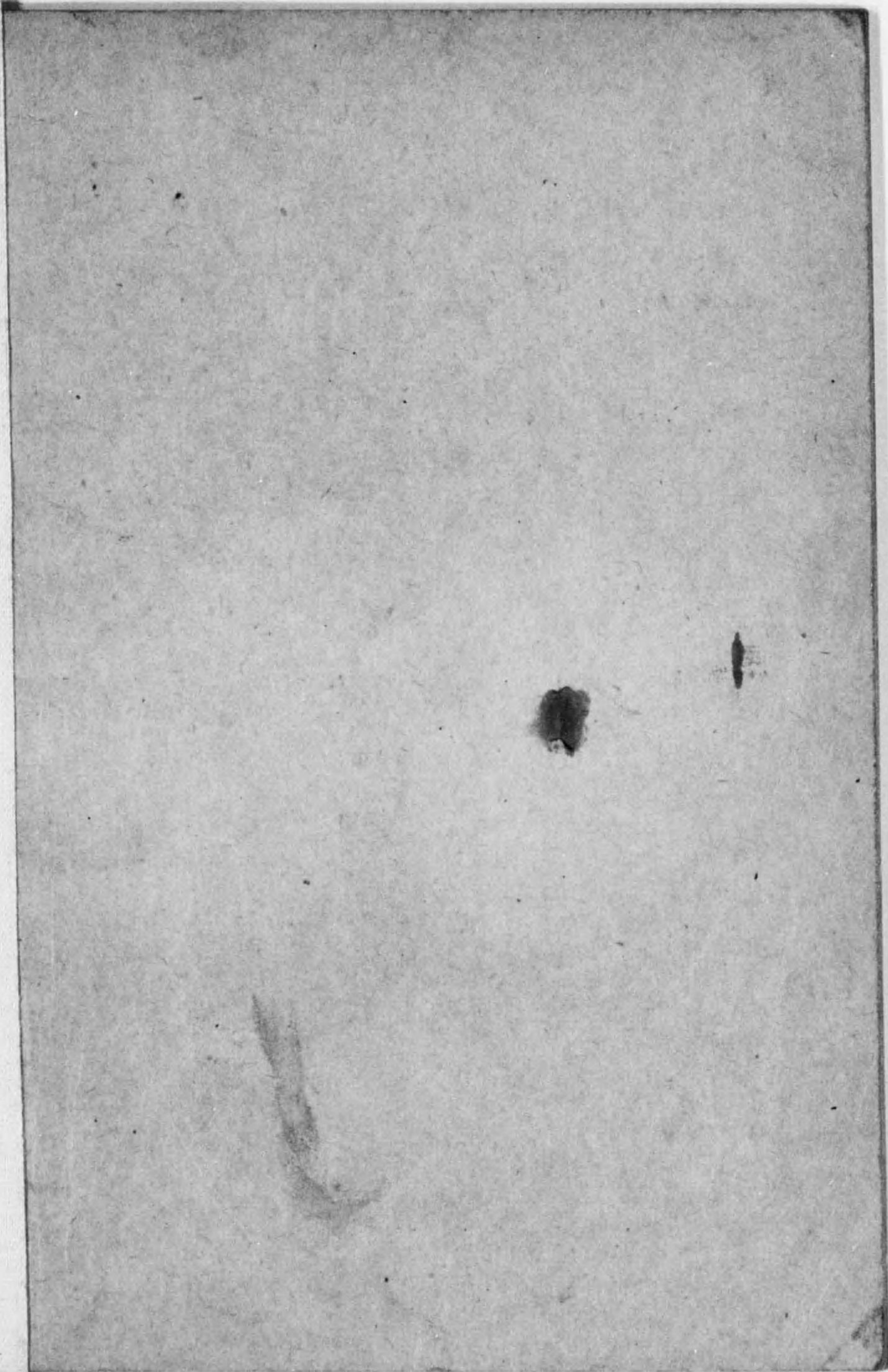
發行所 東京市京橋區木挽町三丁目十一番地  
南 方 園 研 究 會

不 許  
複 製

(規格 A5 東東 3,195)

933  
E  
420

933  
(F)  
420



終